

整理番号	22-2	事務事業名	介護保険給付管理事務	作成部署	保健福祉部介護保険課	電話	内線819
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 石井 潤一郎	課長職名	佐藤 隆	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H12	根拠法令等	介護保険法				
" 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	高齢化が進む中、国民の誰もが直面することになる介護の問題を、社会全体で支えていく仕組みである介護保険制度を保険給付の面から円滑に進める。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第 1 章)
	節	高齢者福祉	(第 5 節)
	施策	在宅福祉サービスの充実	(第 1 施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	被保険者のうち要支援・要介護認定を受け、現に介護保険サービスを利用している方。	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	市民が必要な時に自分に合ったサービスをいつでも利用でき、住み慣れた地域社会で安心していつまでも暮らせるように介護保険サービスの充実を図るとともに、介護サービス費の適正な事務処理を進める。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	平成11年2月から介護保険システムの導入を行い、平成16年4月より電算機器を更新し、資格・認定・給付・保険料(賦課・徴収)とそれぞれの事務について電算処理を行っている。また、給付管理の一環として、平成12年度から非常勤職員によるレセプト点検も実施している。
		17年度	平成18年度からの第3期介護保険事業計画策定に向けて、電算システムを活用を進めていく。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	28,148	25,647	31,675	31,675
	一般財源				
	合計	28,148	25,647	31,675	31,675
人件費(概算)	人数(年間)	2.00	2.00	2.00	2.00
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	18,000	18,000	18,000	18,000
総事業費 +		46,148	43,647	49,675	49,675

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標(事務事業の活動量や実績)	給付件数(件/年)	28,952件	32,500件	40,137件	44,351件
	(高額介護サービス費は除く)				
成果指標(目的の達成度を測るものさし)	過誤申立件数(件/年)	77件	117件		
効率指標(主要活動単位当たりコスト)	1件当たりコスト(円/件)	1,594円	1,343円	1,237円	1,120円
	(総事業費 ÷ 給付件数)				

整理番号 22-2

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等 従前、償還払いであった福祉用具購入費と住宅改修費について、平成15年4月より受領委任払いとなり、高額介護サービス費についても10月より同様の方式を行っていることにより、事務量の増が今後も見込まれる。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	保険者として市が実施すべき事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	要介護度が重度化するのを防ぐ上からも、介護が必要な方が安心してサービスを利用できるよう、サービスの充実と適正な給付管理が必要である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	必要に応じシステムのカスタマイズを行なってきており、今年度より制度改正に伴ない新システムを導入するなど、事務の適正化を図っている。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	1ヵ月当たりの過誤の申立件数が減少しており、給付の適正化が図られてきている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	介護保険システムを導入し電算処理を行なっていることにより、効率的な事務処理が行なわれている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	今後もサービスの充実と質の向上を図るため、給付の適正化と事務の効率化を推進していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり